

越谷・六阿弥陀めぐり

菅波昌夫
加藤幸一

江戸時代、江戸の町で盛んに行われていたのが「六阿弥陀めぐり」である。

阿弥陀如来像を安置している六ヶ所の寺院を春と秋の彼岸に巡拝する信仰である。明六ツ（午前六時）に自宅を出て、一巡六里（二十四キロ）といわれる距離を巡拝し、暮六ツ（午後六時）に帰った。

この越谷周辺地域にも、江戸の六阿弥陀めぐりをまねて、天明八年（一七八八）に船渡村の受道によって「新六阿弥陀」めぐりが行われたのである。

越谷周辺の六阿弥陀の札所霊場は次のとおりである。いずれも浄土宗寺院である。

新六阿弥陀一番は、越ヶ谷の天嶽寺。

新六阿弥陀二番は、増林の林泉寺。石標「新六阿彌陀二番」

御詠歌が書かれた扁額あり。

新六阿弥陀三番は、登戸の報土院。

新六阿弥陀四番は、平方の林西寺。石標「新六阿彌陀四番」

新六阿弥陀五番は、大泊の安国寺。石標「新六阿彌陀五番」

新六阿弥陀六番は、大松の清浄院。石標「新六阿彌陀六番」

新六阿弥陀一番の寺院は天嶽寺と思われる。天嶽寺には石標や扁額は現存していないが、当時勢力のあった浄土宗寺院天嶽寺を置いて他には考えにくいからである。

六阿弥陀のすべての寺院の門前には、船渡村の受道が天明八年（一七八八）に造立した「新六阿弥陀何番」と刻まれた石標があって、今も六ヶ寺中、四ヶ寺に現存している。さらに本堂正面の上方に御詠歌が刻まれた扁額もあったに違いない。

その証拠として林泉寺にある御詠歌の扁額があげられる。林泉寺の御詠歌の扁額は、天明八年に受道によって奉納されたもので、新六阿弥陀めぐり発祥当時の貴重な扁額といえる。

（なお、新六阿弥陀の三番は、その後の調査で、上赤岩の源光寺と判明する。

この源光寺に、石標「新六阿彌陀三番」の石標が現存していることが分かった。）

